



## 愛知県ユニセフ協会12月設立へ

# 子ども支援の輪を広げる

国連児童基金（ユニセフ）の活動に協力する任意団体「愛知県ユニセフ協会」の設立に向けた準備が進んでいる。国内の活動支援組織「日本ユニセフ協会」と協力協定を結んだ上で、世界の恵まれない子どもたちへの募金活動や子どもの権利を守る取り組みを県内にも広げる。設立は十二月十六日となる見込み。

（梅田歳晴）

日本ユニセフ協会と協力協定を締結する「地域協力組織」は、岐阜や三重など全国二十六道府県にあるが、愛知にはない。これまでの活動は、県内に会員五十三万人がいる生活協同組合「コープあいち」が主に担ってきた。

紛争や災害が頻発し、しわ寄せが子どもたちへ向かう現実がある。コープあいちが、ユニセフ活動を組合

員以外にも広げ、より積極的に支援する必要性があるとして協会発足を計画。昨年十月に事務局を設置し、賛同と協力を得るために各団体に訪問を始めた。

七月には名古屋大で第一回の設立準備委員会が開かれ、同大の杉山直学長や県公立高等学校長会、県小中学校長会、日本ボイスカウト愛知連盟などの関係者ら約三十人が出席。参加者

と設立目的や活動概要、設立までのスケジュール、活動計画案を共有した。

十月に日本ユニセフ協会に設立大会の正式申請をし、すでに承認を受けた。今後は、設立に向けた発起人会をつくる。

協会の具体的な活動は、街頭や商業施設などで実施する募金のほか、小学生から大学生までの児童生徒に対する出前学習会の実施など。協会の活動基盤となるユニセフ賛助会員集めも本格化させる。

コープあいちの森政広理事長は「ユニセフの支援が必要な子どもたちがたくさんいる」と強調。「活動の輪を広げ、若い世代を含め

て世界の子どもの現状と支援の状況を知ってもらい、ユニセフ活動に関わってもらいたい」と期待している。